

岡山市における麻しんの歴史

❖岡山市麻しん全数把握事業

平成19年岡山市内で麻しんの集団発生あったが、当時は定点報告疾患であった。

医師会連合会の求めもあり、市内医療機関で麻しん患者の全数把握を実施（当時全数把握をしていたのは石川県のみ）。

疫学調査の指針や基準の調査票もなかったが、岡山市保健所として個別の聞き取り実施。

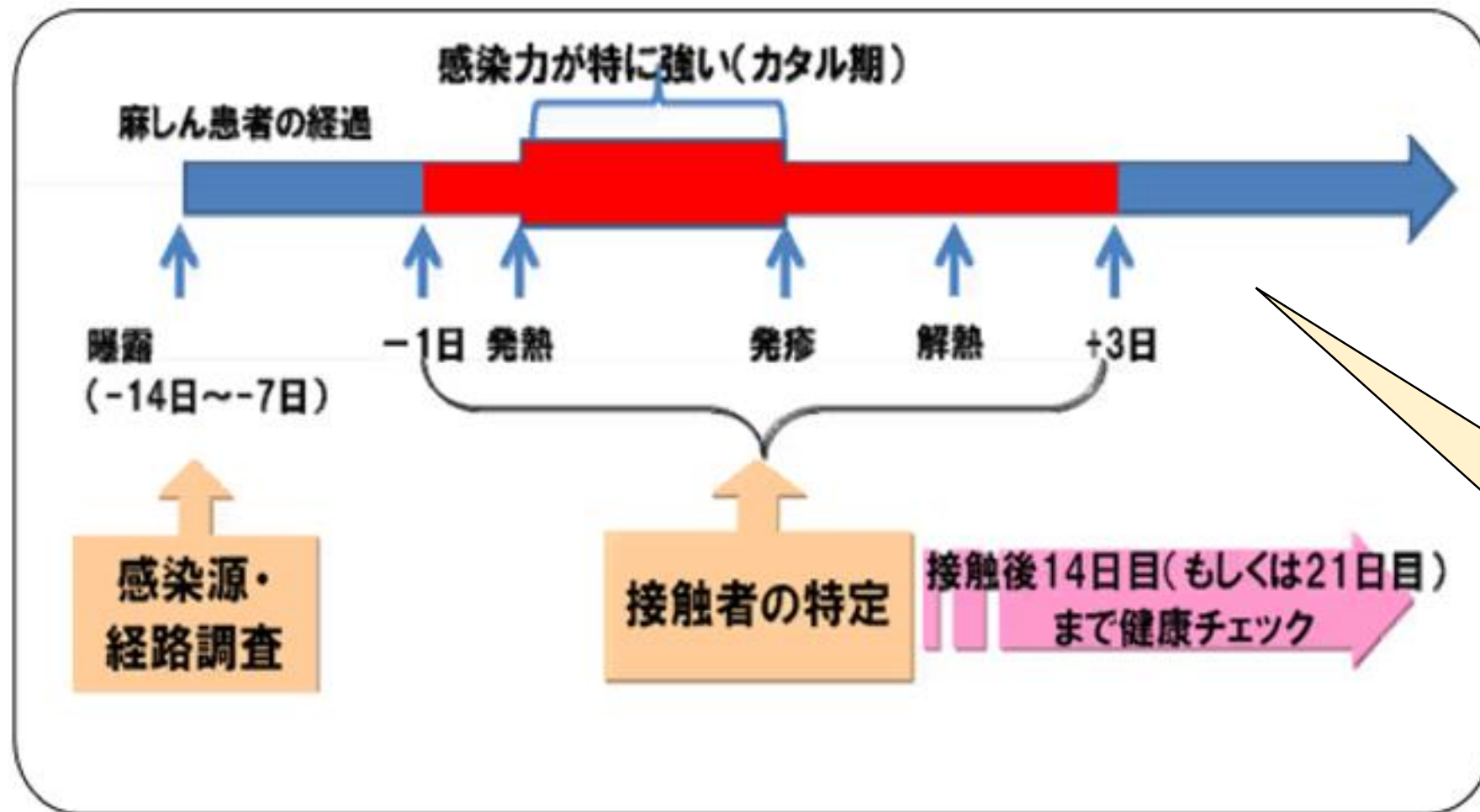
⇒平成20年1月～麻しん風しん全数報告を義務付け

国立感染症研究所が「感染症調査票」を作成するに至った。

麻疹の疫学パラメータ

- 病原体：Paramyxovirus科Morbillivirus属に分類される、エンベロープを有するRNAウイルスである。
- 潜伏期間：10～12日（概ね7～14日の幅で、最大21日）
- 感染経路：空気感染（飛沫核感染）、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示し、基本再生産数は12～18とされ、その感染力は極めて強い。
- 有症状期間：カタル期（2～4日間）、発疹期（3～5日間）、回復期（発疹期以降）
- 感染危険期間：発しんが出現する4日前から発しん出現後4～5日くらいまで。特にカタル期の感染力が強い。

麻疹の感染危険期間のイメージ



※全経過を通じて発熱がみられなかった場合、感染危険期間は発疹出現後5日目までとする。

麻疹の遺伝子型検出

月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2010年1月～2023年8月 (NESID病原体検出情報：2023年9月19日現在報告数)

